

現在の不登校!! 学校!! 教育!! を考える

先月号の終りに不登校でも、ちゃんと大人になると結びましたが、今月号の不登校新聞にも不登校だったけどちゃんと大人になって、実業家をしている澤田^{さわが}さんことが紹介されています。澤田さんは、マネジメントやコンサルタントとして働く人のメンターとして活躍されている方です。そして、次のように語っています。「不登校は大した問題ではないのに大問題にしているのは大人の側です。たとえば『我が子が家にいるから仕事に行けない』『この子の将来のことが不安だ』『我が子と他の子と比べてしまってつらい』と悩みは多いようですが、それって全部親や大人の側の問題です。子どもから見れば自分の子どもと他の子と比較するなんて、もう親じゃなくて敵になってしまうのです。親が我が子のことを唯一の絶対値として見なきゃいけないのに。不登校のことを社会問題にしてしまっているのは大人なんです。……親や周囲が今すぐできることがあります。それは子どもの思いや願いをちゃんと聞くということではないでしょうか。子どもは好きなことや自分のやりたいことは、きっと自分で見つけるのです。(私も同感です) そして「子どものころは朝、目覚めたら『どうして起きちゃったんだろう』と後悔するくらい生きることがつらかったです。そして『もう1日だけ生きてみようかな。たらたら1日分の寢床や食糧を手に入れたい』という感じで、イヤイヤ生きていました。今は目覚めるのが楽しみになりましたけど……もしも、今自分がいる場所が居心地がよくない、自分の居場所じゃないと思ったら、別な居場所を探しましょう。必ずあるのですから。……明日1日生きるのが苦しいのならそのまま寝ていいのです。できるだけ食べ物をお腹の中に入れて、親は起しちゃダメ。目覚めるとき、その子がハッピーであるように、そっと寝かせておきましょう。……と語っています。

不登校で悩んで親の会を訪ねて来る親の方も同じで、初めのうちは、子どもをなんとかして学校へと、どうしたら学校へ行かせることができるのだろうと思ってお話をしますが、子どもを何とかしなくてほと親が思っていることは、ちゃんと分かっている、そう思っている間は子どもはちゃんと分かっている、前を伺わないのですが、親が自分の味方になってくれているということは、子どもが感じとることで、そう感じたら、親が何も言わなくても前を伺って、自分のやりたいことをやるようになり、ちゃんと大人になっていくと思っています。子どもを信じてもいいのです。

次に今、不登校で気になっているのは、不登校が増え続けているということです。これからも、続き、来年には30万人を超える数字になっていると思うのです。それは、今までの教育の状況が変わらず、受験競争の一本道になっていることです。そして、学校は先生にとっても働きづらい環境が変わらず、さらに深刻になり、先生の定員割れの状況が続いているということです。不登校のことでは、その原因の調査が毎年発表されてきました。

その中に不登校の原因として毎年一位に挙げられてきたのが「無気力、不安」というくくりの項目です。原因の50%ぐらい占めているのです。それに対して先生学校に原因があるという項目は毎年数パーセントなのです。この調査、統計をゴツとおかしいと思ってきました。不登校の子どもに「無気力」な子どもは一人もいないのです。なまけている子などいないのですと思ってきたのですが、今年になって、この統計は少し違っているのでは、統計のやり方を見直そうという声が上がってきました。学校、先生にも責任があるのではという統計報道がありました。子どもは学校へ行く気力がないから学校へ行かないのではないのです。逆に学校へ行かなくては、行きたいと思いつながら、行けない自分をダメな人間だと自分を責め下を向いてしまうのです。顔を上げることができないくらい悩んでいるのです。「どうして」「どうするの」と聞かれても子どもは説明できないのです。そんな子どもに将来大変になるよと親の願いを届けても、子どもは前を向けるような気持ちにはなれないのです。そんなふう悩んでいる子どもに「あなたの思いは、願いは、と、子どもの思いに寄り添いちゃんと聴くよ、教えてよ、あなたはまだ大丈夫、きっと好きなことが見つかるよ」という親の気持ちは、きっと子どもに届くのです。その親の気持ちが子どもに伝わったら、子どもは安心して、そこから前を向いて考えてみようと思うのです。親はどうしたら学校へ行くようになるのだろうと心をくだくのではなく、大丈夫あなたはまだと信じ応援しているよという心は、きっと子どもに届くのです。その気持ちが子どもに伝われば、きっと「よし」と前を向いて進む日が来るのです。そして自分で歩いて、ちゃんと大人になっていくのです。親が子どもの未来を思ってもそれは親が想像した親の思う未来です。子どもは安心して自分で自分の未来を思い考えるのです。それを応援してもらえたら、どんなに心強いことでしょう。子どもの未来は子どものものであるのですから、是非子どもを信じて応援してあげてください。

今世の中はどんどん進んで、AIで不登校になるかどうかを予想して、タブレットで親に知らせるという取り組みがあるようです。そんなお知らせを受けとった親の気持ちをどう考えているのでしょうか。受験競争があたりまえのようになっている学校で、心はいつもイライラ。そんなことではなく、子どもにとって学校はたのしいよと思えるような学校をどのようにつくりだしていこうとするのが、そのことに心をくぐたいとほしいと願っています。

子どもの未来は、学校や親が決めるのではなく、子ども自身が決めるものです。そのサポートをすること、子どもがやってみようという気持ちを応援し、育てるのが学校であり、家庭なのです。

子どもを信じて、子どもがやろうたのしいなという気持ちを大切にすること、原点に今一度振り返ってみる必要があると思うのです。それは大人の仕事であり、大人の責任だと思っています。